



題字 北浦 晃氏

第 7 号 平成 3 年 3 月 10 日 発行 文化女子大学室蘭 短期大学同窓会 室蘭市高砂町 3 丁目 11-50 印刷所 富士印刷株式会社

意義ある同窓会を目指して

同窓会会長 下沢和枝

平成3年の新しい年を迎え、同窓の皆様がお越しですか。世界の情勢もむずかしい時であり、直接我々の身に社会の変化が伝わってくる今日この頃です。年に一度の会報を作り、皆様に発送する事と、文大祭のバザーの出店は終了し、携わったもの一同はひとりであります。常任委員会を開いて、もって活発に活動をとら思いますが、集まる人数に限られて、集まった人にも気の毒だった事が度々ありまして、現在は委員会、総会共停止している状態です。同窓生総数も今年で2660名を

られない事実です。状況は状況として、できる所から参加していただくではありませんか。又、この年一回の会報を待っていて下さる方も多くいます。他の土地に住んでいる人などから、懐しく楽しみにしている励まされる事も多々あり、我々もこれを励みに頑張りたいと思えます。今は絶やさず続けていく事が使命と思っております。

第22回文体祭のお知らせ

一般公開予定 平成3年11月3日(日) 4日(月) 同窓会バザー予定 11月4日 10時より この機会に母校へ是非いらして下さい。

会計報告

平成元年4月～平成2年3月末までの会計収支決算は、下記の通りとなりましたので、皆様に御報告いたします。

Table with 4 columns: 収入金額, 支出金額, 繰越金, 繰越金. Rows include 同窓会費(保20・教1期), 同窓会費(過年度卒), 利息, バザー売り上げ金, (イ)計, 収支差引次期繰越金.

平成元年四月～平成二年三月までの同窓会費収支決算は上記のとおりになりますのでご了承下さい。尚、ご不明な点などがあります。

した、会計の方へご連絡下さい。同窓会終身会費未納分納入について、昨年度は服装学科一週生から十週生までを対象とし、お知らせ協力をお願いいたしました。結果はあまり良い理解を得ることができませんでした。会員皆様の暖かいご理解とより一層のご協力をお願いいたします。今年度は保育科一週生から十週生を対象に未納額をお知らせいたしますので、郵便振替にて納入をお願いいたします。昨年度の服装学科一週生から十週生の皆様も合わせて納入のご協力をお願いいたします。振替用紙には封筒の表面下に記載されています(会員番号)を必ず記入願います。

荣誉に輝く 野本教授に文部大臣賞



短期大学教育40周年にあたり、教育功労者として野本醇教授が、本学のお二人の教授と共に文部大臣表彰を受けられました。これは永年にわたり特に功労のあった方が対象で、卒業生の皆様も絵画・図画工作・デッサン・造形論等で御指導を賜ったのではないのでしょうか。野本教授は、と精力的に札幌や室蘭で個展を開いております。

野本 醇 個展 札幌時計台ギャラリー 9月9日(月)～14日(土) 室蘭浜町ギャラリー 10月末予定 服8期 米川久仁子

今年も好評 同窓会バザー

平成二年度、六回目のバザーは昨年十一月四日(日)に行なわれ



学内ロビーにて

ました。

ここ数年、バザーの作品は袋物中心なのですが、今回も同様、袋物・飾り物・小物類など実用的で色彩の美しい作品が集まりました。このバザーは文大祭期間中に定期的に開催しているせいか、毎年買いに見える方もいて、大変嬉しいことです。

売り上げ明細は下記の通りです。過去3回を比較すると、品数が年々減少しているため、利益金も同様に減少状態です。

今回は、北浦先生のお母様よりパッチワークキルトの袋物を沢山寄贈していただき、品数の少ない折、大変有難く感謝致しました。

今後は、手作り作品収集の努力が必要と思いますが、毎年、継続出来るよう御協力をお願い致します。

冬の時代に備えて

主事 菊地敬夫

一九九一年三月に第二十一回卒業式、同四月に第二十三回入学式を迎えた文化女子大学室蘭短期大学、四半世紀にもなろうという創立以来の道程をふりかえると、決して平坦な道のりではなかったと、教職員はもとより同窓会のみならずも思っていることであろう。幾多の困難、障害を乗り越えてきた今日、同窓会のみならずのご協力、ご支援に厚く感謝の意を表したい。

さて、みなさんは昨年12月3日付の北海道新聞紙上で、本学の紹介記事が大きく載ったのをご記憶でしょうか。「青春せみなる」欄で、「キャンパスに新しい風」「学生獲得作戦」が的中、「東京本校へ優先編入」「地元(室蘭)の学生にも刺激」といった見出しが躍っていました。このなかで、東京の文化女子大学を本校としたのはミスでしたが、いずれにしろ写真やイラストト付きで大々的に紹介されたわけで、東京の本部からも問い合わせ



主事 菊地敬夫

又、お忙しい中、作品を作った下さった皆様に厚くお礼申し上げます。

Table with 2 columns: 年度, 利益金. Rows include 平成2年度, 平成元年度, 昭和63年度, 売り上げ金, 利益金.

水芭蕉

保一期 北村 啓子

成人式のセレモニーのニュースを観た。私(一期生)にとってみれば二〇年前である。新成人の二倍も長生きした事になる。何かはさかしい思いがした。二倍成長したであろうか。胸を張って云える事があるだろうか。二〇年前、晴着も式も一斉拒否しようとしたら、父に「親子の縁を切る」と云われ、しぶしぶ(結構晴着姿に酔っていたが)出席した記憶がある。当節、記念写真は前撮りするとか、晴着に百万、二百万かけたとか、旧成人は驚く事ばかりではあるが、昔も今も成人式は当人達よりも、むしろ育ての親にとって、一つの区切りであったり成果なのかもしれない。小学生の娘に、お金が掛かるから出席しなくていいよ、と手前勝手な発言したが、さてその時が来たら目を細め、涙ぐみながら「あーよくぞここまで成長したものだ」と言

い出すかもしれない。あまり多言するのはよそう。

20周年記念特集 電話インタビュー

ここに記載したものは短大で発行している。BUNKA女子短大だより、の4号から抜粋したものです。

お聞きしたことは次の二つです。
①卒業後、現在まで何をしていますか？
②学生時代の思い出として、印象に残っていることは？

郷野(旧姓青木)修子さん



●標準高校出身
●3期服装学科卒
●標準郡標準町在住

①S48年卒業と同時に、別海町の上春別中学校に家庭科の教師として赴任。僻地校なので、他に国語・音楽・体育も担当。50年に標準町標準小学校に転勤、同年、酪農家にお嫁入りしたので、以後5年間は先生と農家の主婦を両立させていました。現在は中1・小1の男の子と小4の女の子の母親として、酪農家の主婦としてがんばっています。

藍原(旧姓山王)佳子さん



●室蘭東高校出身
●12期保育科卒
●室蘭市高砂町在住

①S57年卒業して、短大附属幼稚園に務めて、現在は主任をさせていただきます。附属ではいつも文短の卒業生が務めていますが、最初の先輩もみなさんおやめになって、いつの間にか一番上になってました。附属で先輩という同僚ばかりでなく、実習や見学に来る現役の学生達もいる訳ですから、みんなより良い幼児教育者になれるように、去年結婚したので、家庭と両立させてがんばりたいと思っています。

田中美都利さん



●カトリック女子高出身
●4期保育科卒
●室蘭市大沢町在住

①S49年卒業ですが、東京の昭和音楽大学短大部を受験・入学しました。51年短大卒業のあと専攻科・研究生として残りピアノと音楽の勉強をつけてまして、室蘭には53年に帰り、家で若い人達に教える他、発表活動も数多く、大変忙しい毎

内藤(旧姓松岡)朋子さん



●カトリック女子高出身
●13期服装学科卒
●室蘭市御前水町在住

①日本舞踊をずっと習っていたのですが、S58年短大を卒業した頃に名取になり、花柳朋信華といえます。先生のお伴で、外務省の国際交流でパキスタン・タイ・マレーシアなど二ヶ月巡回して来たり、花柳衛信先生の研究所のお手伝いを長くしていました。S61年結婚して、家は内藤食品工業株式会社として仕事から朝早くから主に事務ですが手伝ったりもします。62年出産しました女の子が2才になりました。

金子明恵さん



●登別南高校出身
●17期(3期生活教育科)卒
●東京都世田谷区在住

①S62年卒業して、東京の虎の門にある共同石油株式会社の本社に勤務しています。事務職で毎日ワープロやパソコンに向ってますが、大きな組織の中の仕事は単調ですから、どうしても仕事以外に生きがいを探るようになり、私も平日の通勤後にゴルフと英会話のレッスンを通っています。土曜・日曜の休日はドライブとか旅行とか……。観光地や保養地に会社の施設があるて、安く泊れますのでよく行きます。典型的な都会のOLという感じの毎日で。

坂道

保一期
村上美津穂

ドタバタと夕食の支度をしてやっとな、家族がテーブルに着くとさっそく娘がおしゃべりを始める。一日の出来事が、次々と口から飛び出し、僅かな継ぎ目に、ご飯を放りこむ。
「あっ、ちょっと待ってね。」
私は話を遮って立ち上がると電話に向った。勤め先の保育所の子がさっき、小さな怪我をしたのを思い出していた。保育である私は、二人の子を保育所につけて別の保育所で半日を過ごしている。
「さっきのとき、まだ痛い？」と語りかけ、電話のむこうの元気な声に安心し、ついでに軽口をたたいて受話機を置いた。
食卓に戻ろうとした時、娘と目が合った。娘は、話の続きをしようとして、私を待っていたと思

う。けれど、ほんのひと呼吸の間、目を合わせると、静かにご飯を食べ始めた。
私は「ちょっと待ってね」の前に、何の話をしていたのか忘れていた。それは、ほんの些細な、聞いた端から忘れても構わない程の話だと思いが、スツカラカンになった胸に、うつむいてご飯を食べ続ける娘の指先が細く白くはりついてきた。
職場に向う道の中、緩やかなカーブになった坂道があり、そこから海が見える。海は金色に輝いて、果しなく夢を広げてくれるし、鉛のうねりとなって、その底へ私を引きずりこもうとしたりもする。朝、母親である私は、子どもたちを保育所に送り、小さな街を走り抜ける海見える坂道を越えたところ



「感性と表現」をテーマに 北海道私立幼稚園教育研究大会

昨年の九月、北海道私立幼稚園教育研究大会が室蘭で開催されました。十九年前に一度、室蘭でこの大会があったから二度目の事、今、室蘭市内の幼稚園の中で、大会を担当する経験を持っている教師はごくわずかだったと思います。一年以上前から室蘭市内、そして登別、伊達、三市の幼稚園が集まり、この大会にむけていろいろな話し合いが持たれてきました。



我が園は公開保育を担当。テーマは「感性と表現(音楽、動き)」という事になりました。千人以上の人が集まるというこの大会、幼稚園の新教育要領が施行された年であり、子供達の感性や表現する力、環境が大切とされる中、どのような公開保育をしようかと、頭を悩まして日々が続きました。そうこうしているうちに新学期が始ま

り、実際に具体的な作業を進めていかなければならなくなりました。園長を中心に六名のスタッフが頭を寄せ合い考え、内容を決定し、指導案など全道に配布される案内の制作、公開保育や分科会にいらっしやる先生方のお迎え準備など少しづつながらも大会の日に向かっていきました。
当日は、百余名の方が我園に集まり、天気が良かったので外の活動を見ていただいたり、子供達が使っているハンドベルを教師の演奏ではありましたが聞いていただきました。中には我短大を卒業した幼稚園の教師として活躍されている先生方も数名いらして、懐かしう幼稚園の中を見ていらしたようです。公開保育のあとは分科会。同じテーマで研究を進めてきた先生の提言をもとに、話し合いが進められました。限られた時間の中からはありましたが、手伝いをしながら参加していた実習生も、いろいろな意見を聞く事ができ、有意義な時を持てたようでした。
この室蘭大会を終え、たしかに準備にはいろいろな苦労があったり、多くの時間がかかりました。それでも、皆が一つの事に向かい考え、つくりあげてきた事は幼稚園

編集後記

今年は、世界の動きがあわただしい幕明けとなり、毎日、悲惨な映像が我々の目にとび込んで来ていやおうなしに戦争というものを考えさせられる。この文明の時代に、話し合いで解決できないものなのか不思議でたまらない。中東には、根深い宗教、人種的なものなど、島国であり、単一民族の者の尺度では計れないものがあるのだらうと察する。戦争によって、多くの人が死に、傷つき、家をなくし、悲しい事である。口先で戦争反対と言っているだけで、何ひとつ、行動できない自分に腹を立てながら、一日も早く戦争が終わる事を願ってやまない。(S)